



S REPORT サステナブルレポート No.96

コンタクトレンズ から覗くごみ問題

廃棄物

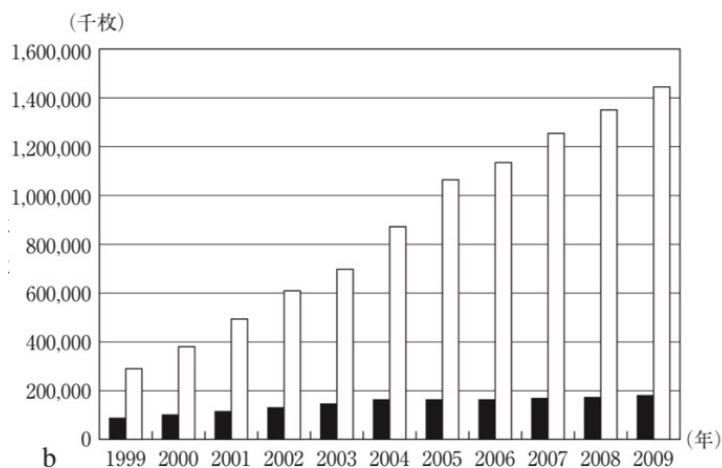
リサイクル

再資源化

■ コンタクト使用者の増加に伴う廃棄物量の変化

- 国内の**コンタクトレンズ使用者は、6年で315万人増加**（1999年比）し、**約1億5,300万枚のレンズが生産されている**（薬事工業生産動態統計調査をもとに筆者推計）
- 1日使い捨てレンズの生産枚数は10年で約4倍となり（1999年比）、**年間14億枚以上のレンズ・空ケースが捨てられている**（2009年時点）
- 近視の増加により、**世界のコンタクトレンズ市場は2020年の74億ドルから2050年には102億ドルになると**され、廃棄物量はさらに増加すると推測される

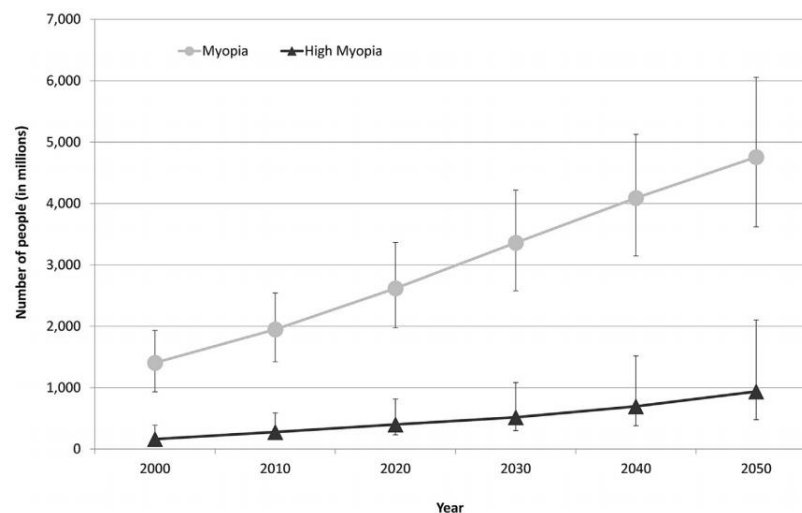
■ レンズの生産枚数推移



■ 2週間交換型、□ 1日使い捨て

出典：株式会社メニコン

■ 近視人口増加の推測



出典：Brien Holden Vision Institute

廃棄されるものを捨てずに再利用する

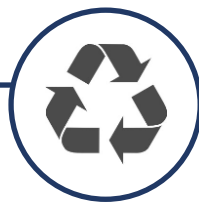
■ レンズのリサイクル

- 使用済みのレンズを、**消費者が回収BOXに入れたり郵送することで回収**
- 回収後、細かく粉砕され、圧縮して粉末状にする
- 粉末状にしたレンズを用いて、**家具やプラスチック製品化**されている

■ Johnson & Johnsonの取り組み



- 使用済みレンズを入れる**回収BOXを設置**
- 英国全土で**1,000か所以上**



- **ブランド問わず回収可能**
- 440万個以上のレンズ、空ケースを回収/リサイクル



米国の**TERACYCLE**と協働

TERACYCLEとは
本来廃棄物とされてきたものを回収し、焼却や埋め立て地に送るより環境負荷が遥かに低い、リサイクルやアップサイクルを行っている。

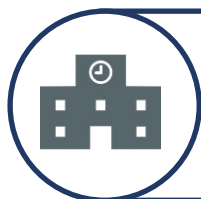
出典：Johnson & Johnson

日本ではレンズ回収は普及していないが、他の廃棄物を回収している

■ 空ケースのリサイクル

- 販売店舗の**店頭**や**学校**、**市役所等**に、**空ケースの回収BOXを設置**している
- 回収後、**プラスチック製品**や**リサイクル商品に再利用**される
- **リサイクルしやすい単一素材**で、ポリプロピレンが使われておりパレットやクリアファイルに

■ アイシティの空ケース回収運動「ecoプロジェクト」



プロジェクト参加
学校1,561校、企業679社、自治体13ヶ所
(2021年3月時点)



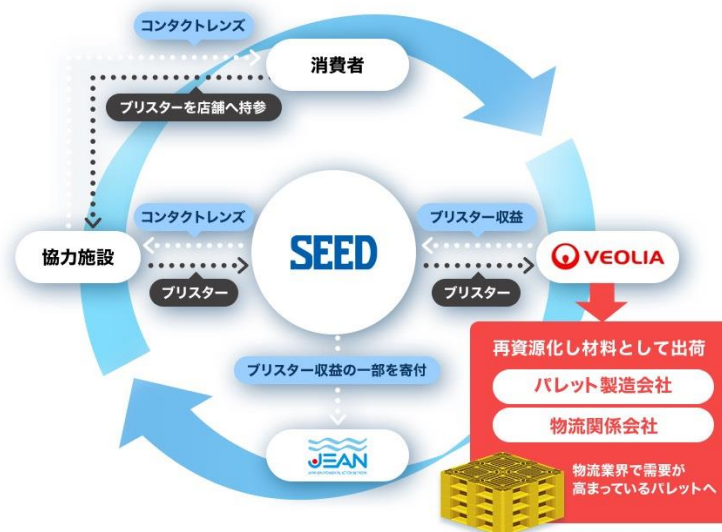
空ケース回収数
399.92t (2021年5月時点)



空ケース買取費用
9,145,731円 (2021年3月時点)
全額日本アイバンク協会へ寄付

出典：HOYA株式会社アイケアカンパニー

■ SEEDのリサイクルフロー



出典：株式会社シード

回収率を上げるために企業がすべきこと

■ 回収しきれっていない現状

- アイシティecoプロジェクトにおける**空ケースリサイクル比率は1%未満**
- 回収に取り組む団体や企業は増えているが、そこに所属していない人には認知されていない
- 販売と回収の繋がりを強化**し、消費者に行動を促すメリットが必要
- リサイクルせざるを得ない状況**を作り、回収を+aではなく当たり前

■ 回収方法の変化

従来の回収方法

- 購入と回収の流れに繋がりが無い
- 持っていなくても問題はない



今後の施策案

- 空ケースを返却することで**割引・ポイント付与**
- ケース代を上乗せ**した金額で販売し、**回収後返金**
→消費者にレンズ購入とのつながりを持たせる

回収するメリットを作り、リサイクルを当たり前

■ 不適切な廃棄方法

- **消費者の2割はレンズをごみ箱以外に捨て、そのうち5割近くが洗面所や流し、トイレに流している（下記）**
- マイクロプラスチックとなり海に流されると、**海洋ごみ問題にも影響を与える可能性がある**

年齢	いつもゴミ箱以外に捨てている	時々ゴミ箱以外に捨てることがある	いつもゴミ箱に捨てている
全体	20.6%	7.9%	71.5%
15-19 歳	26.6%	9.0%	64.4%
20-24歳	19.8%	7.8%	72.3%
25-29歳	17.8%	7.9%	74.2%
30-34歳	20.9%	7.8%	71.2%
35-39歳	19.9%	8.5%	71.6%
40歳以上	18.2%	5.8%	76.0%

表：一般社団法人日本コンタクトレンズ協会「2019年度コンタクトレンズ消費者実態調査」をもとに筆者作成



情報提供から実行支援まで
SDGs・ESGの企業対応を
 支援しています。

- ✓ 何から取組み始めればいいのかわからない
- ✓ 経営層や社員への浸透に悩んでいる
- ✓ SDGs・ESG投資に関する社内セミナーや社員研修を行いたい

無料！

お問い合わせ／お見積もり

お急ぎの方はお電話で

📞 03-5542-5300

受付時間 9:00～19:30

参照・引用資料

- ・ 株式会社メニコン, 「コンタクトレンズ博物誌 その11」, 2009年 (<https://www.menicon.co.jp/whats/history/pdf/CLhistory11.pdf>)
- ・ 株式会社メニコン, 「コンタクトレンズ博物誌 その18」, 2011年 (<https://www.menicon.co.jp/whats/history/pdf/CLhistory18.pdf>)
- ・ 厚生省, 「薬事工業生産動態統計」, 1989年～2000年
- ・ Johnson & Johnson, 「Johnson & Johnson Vision launches the UK's first free nationwide recycling programme for all contact lenses」, 2019年1月16日 (<https://www.jjvision.com/press-release/johnson-johnson-vision-launches-uks-first-free-nationwide-recycling-programme-all>)
- ・ ACUVUE, 「WASTE」 (<https://www.acuvue.com/sustainability/recycling-reducing-waste>)
- ・ HOYA株式会社アイケアカンパニー, 「ecoプロジェクト」 (<https://www.eyecity.jp/eco/>)
- ・ 株式会社シード, 「BLUE SEED PROJECT」 (<https://www.seed.co.jp/blueseeds/>)
- ・ TERRACYCLE, 「テラサイクルについて学ぶ」 (<https://www.terracecycle.com/ja-JP/about-terracecycle>)
- ・ Brien Holden Vision Institute, 「Global Prevalence of Myopia and High Myopia and Temporal Trends from 2000 through 2050」, 2016年2月11日 ([https://www.aaojournal.org/article/S0161-6420\(16\)00025-7/fulltext#%20](https://www.aaojournal.org/article/S0161-6420(16)00025-7/fulltext#%20))
- ・ 一般社団法人日本コンタクトレンズ協会, 「コンタクトレンズの正しい捨て方」 (<https://www.jcla.gr.jp/disposal/index.html>)

サステナブルレポートに関するお問い合わせ先：

SREPORT 編集部 ☎ 03-5542-5300 ✉ info@sfinter.com

- ・ 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- ・ 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- ・ 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- ・ 本レポートに関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

Satisfactory



<https://www.sfinter.com/report/>